



《北部地域住民自治協議会会長就任にあたって》

北部地域住民自治協議会
 会長 渡邊 清明

令和3年5月から、当協議会の会長の職を担うことになりました渡邊です。

もとより浅学菲才の身ではありますが、地域振興発展のため微力ながら、頑張っ参りたいと思いう所存であります。当協議会は、秋田市北部の12団体で構成しており、北部市民サービスセンター『キタスカ』内に事務局を置き、地域で起こる様々な問題解決に向け大きな役割を果たし、私たち日々の生活において各種団体や町内会、自治会と連携しながら、地域発展のために様々な行事や活動等を計画実施しております。「地域の一員」として、様々な行事や活動等に参加することで、交流や親睦が深まり、地域の連帯感が培われ、時には支え合い助け合うことができる住みよい豊かな地域づくりが必要です。

さて、北部市民サービスセンター『キタスカ』も令和2年度に開館10周年を迎えることができました。しかし、昨今の新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、記念事業は今年の11月6日（土）に開催することになりました。記念公演会は【キタスカ感謝祭】として～ギバちゃんとキタスカへGO～として開催します。家族揃ってご観賞下されば幸栄に存じます。

今後、私ども自治協議会では『地域社会と共に歩む協議会』として、様々な事業を展開して参りたいと思っております。人々が生まれ育ち、文化的伝統を伝える場である地域社会の重要性が今後一層高まることを期待し、これまで多くの方々の善意と熱意によって支えられてきたことをご理解頂き、また、今後とも多くの方々の温かいご支援とご協力を賜りますことを祈願しながら、次の世代に本事業を確実に伝えていくよう決意を新たにす次第でございます。

皆様方のご協力の御陰で様々な活動を行うことができます。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

令和3・4年度 北部地域住民自治協議会 理事名簿

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
会長	渡邊 清明	常任理事	保坂 進	監事	牛嶋 道夫
副会長	川口 洋一		船山 齊		伊藤 勉
副会長	中村 茂		船木 孝治		向駒木 敦
	佐藤 サツ子		齊藤 孝次		新岡 巖
監事	藤原 正三	常任理事	加賀谷 毅		照井 巳千生
常任理事	三浦 吉壽		越中谷 永一	常任理事	加賀美 讓
	山田 賢一		越中谷 正博	常任理事	鎌田 悟
常任理事	佐藤 清	常任理事	山本 喜昭	常任理事	斉藤 清克
	三浦 榮		大淵 志伸		伊藤 敬二



飯島神社二百年祭にあたって

飯島塾 塾生 永木宏明

飯島神社は、創建から今年で二百一年を迎える。記念すべき二百年祭は昨年であったが、新型コロナウイルスの影響で式典がとりやめとなり、今年8月19日改めて記念式典が挙行された。

神社の歴史を探ってみると、境内の隅に「財康神社」と刻まれた小さな石碑がなかば埋まって現存している。



飯島神社・狛狐

もともとは飯島のお稲荷さんとして下飯島鼠田尻地区の鎮守さんで、文政3年(1820)に建立され、土崎、秋田方面からも参拝者があった。一説には、光沼に夜な夜な怪光が現れるため、砂山の上に稲荷神社を祀ったという口伝もある。

1800年頃秋田藩に仕えた狩野派の絵師荻津勝孝が描いた秋田街道絵巻の中に往時の稲荷堂が描がられている。

祭神は、宇迦之御魂神と天照大御神で、例祭日は毎年8月19日は宵祭り、本祭りは8月20日に行われ、五穀豊穰・家内安全・無病息災等を祈願してきている。

明治45年飯島各集落の神社、穀丁村社神明社・飯田村社神明社・飯島無格社神明社と飯島村社稲荷神社が合併し、飯島神社となり、飯島全地区の氏神となった。

しかし、戦後神社は合併以前にもどり、現在では下飯島・松根・薬師田・街道・緑丘町の五町内で護持し、現在に至っている。

社殿には、荻津勝孝の孫荻津勝章が描いた絵馬・曳馬が、明治24年8月に伊勢という人の名で奉納されている。

この他「参拝」する男の絵馬が明治35年に水戸瀬徳治が奉納している。この絵は、画号が芳暁^{ほうきょう}という驚谷隆次(土崎出身)が描いている。また、「向い狐」の絵馬が明治40年相染町の竹谷清之助により奉納されている。作者は不明である。

境内の隅に瓦の残骸がある。これは、昭和61年に神社の屋根の葺き替え前に使用していた越前瓦である。越前瓦は日本六古窯の一つに数えられ、大変貴重なもので江戸時代から遠く北海道まで北前船で出荷されていた。この越前瓦を穀丁湊までに運搬してきて、神社の屋根に使用したものである。

また、神社境内のそばに、二本の老松の根本から湧き出ている泉がある。これを御手洗の湯として沸かした「銭湯」松根湯が平成14年まで営業されていた。

この湯は、鉄分を含んだ鉱泉で神経痛、リュウマチに効用があり、地元だけではなく土崎・手形の人達にも知られていたが、平成14年跡継ぎ不在等の理由で107年の歴史に幕を閉じた。

このような歴史の中で、平成3年氏子総代会では、天皇陛下御大典奉祝にあたり、その記念事業として飯島神社名の石碑を建立し、記載碑文には、昭和61年神社屋根の銅板による葺替え、平成元年「のぼり旗」を新調、2年には鳥居一基を奉納、石碑にこれを永く後世に伝えようと銘記している。



境内・太平山石碑

戦前までは、祭典日には奉納相撲や銃剣術の奉納もあり多くの屋台が出たが、戦後は廃止となっている。その中でも地元民5~6人の飴売りが名物であり、最後の飴売りといわれていた「とりっ子飴のじっちゃ」こと菊池三之助さんが亡くなったのが最後であった。

近年の祭行事を見ると、昭和45年からは、盆踊りを取り入れ平成3年には舞台櫓を組んで盛大に行われ町内の人々の憩いの時でもあったが、人口減少に伴い参加者も序々に少なくなっている。平成19年からは、子供と祭の関わりを「子供の集い」として絵燈籠づくりを行い、宵祭りの夜この絵燈籠に火を入れてもらって家に帰って飾るということも行っている。また、平成24年からは、飯島中学校の吹奏楽部が演奏を披露し町内の人々に楽しんでいただいている。

神社境内には、神仏に対する祈り・慰霊等の碑、百社詣拝・忠魂誉の碑が建立されている。また、安政4年（1857）に建立した太平山石碑は、下飯島の若者講中が設置したもので、建立にあたっての石塔の記録が残っている。この記録によると、建立の石は、夏の間は上新城の川で見立てておいたものを冬期に馬そりで運び、石工を頼んで文字を彫らせたと書かれている。

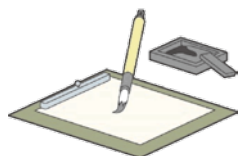
境内に旧松根郡道跡がある。この郡道は下飯島方面から土崎に往来する道で、松根町内公民館前から飯島神社境内広場を斜めに松根湯の西側を通り、松根西町三番元市営住宅地からJR長野踏切に通じていた。現在の市道は、昭和初期に造られもので、しばらくの間神社境内の道路と両方利用されていた。

神社は、地域にとって共通の財産であり、その存在をもって住民の心をまとめていく力がかもともと有ったはずである。しかし、現代では、価値観の多様化により、住民の絆が弱まっている傾向にある。

飯島はいま秋田市で一番人口の多い地域で、古くからの住人はもとより後年飯島に移り住んで来た人々も、祭をとおしてこの地域にまつわる歴史・文化・人の営みを理解共有し、将来を担う子供達に伝えていくことは重要なことであり、このことは、今後の飯島の発展につながっていくものだと考える。



飯島神社



サークル紹介



書秋会

代表 金子 勇子

書秋会は土崎公民館時代の書道サークルが合併して2012年2月に再出発した小さな書道グループです。特に指導者をお願いせず、お互いに助言したり添削し合っの練習や作品作りに励んでおります。書を楽しむ者にとって作品発表の場は負担を感じながらも、作品が出来上がった時の達成感は格別なものがあります。作品発表の場は有難い機会でもあります。

又、筆を持つ事ばかりではなく、メンバーとの出逢いや励ましが癒やしとなり、日々の生活の活力となっている事は何より喜ばしい事です。感謝々々!!

【例会日 第1・3火曜日 9:00~13:00】



すみれサークル

代表 中村 揚子

すみれサークルも30年を迎えようとしています。私がサークルに入ったのは平成7年。始めは40名位でしたが今は9名になりました。

足腰の痛みなどのため継続ができなくなった人もいたため、発足当初からのメンバーは4名になりましたが、若い方の入会があれば励みになります。

歌に合わせてダンスを踊っていると、足や腰の痛みや年も忘れて若い人に負けじと頑張っています。興味のある方は一緒に踊ってみませんか。若さと健康を保つために楽しみませんか。参加をお待ちしています。

【例会日 第1・3月曜日 9:00~12:00】



～北部地域～ ぐるっとまち歩き 第3回 土崎②



『将軍野ふくべ川の歴史』

将軍野一区寿将会
会長 児玉一男



私が小学校時代に、現在住所土崎港東一丁目（旧住所将軍野一区）に瓢箪の形をした瓢（ふくべ）川と呼ぶ沼があった。夏休みにはドジョウや銀ヤンマ（トンボ）を捕る等の子供達の楽園の地で、その流れは幕洗川二区町内の竹谷宅横から幕二町内ど真中流れる（幕二の曳山台車に瓢箪の紋）。そして愛宕町の川村自転車店小路から海禅寺の北側を流れ、龍神社の境内を通り南材木店前の本町通りを斜め横断して、小形宅横を流れ港に注ぐ、子供の頃に記憶している小川と言うより堰であった。

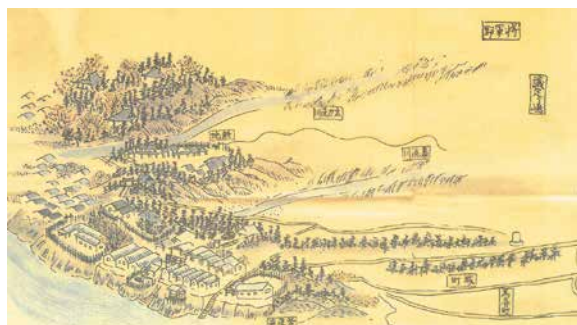
ふくべ川の沼の畔に秋田労農社の跡地の標識柱があった。大正十年小牧近江・金子洋文・今野賢三らが中心となり、土崎から発行した「種蒔く人」は日本のプロレタリア（無産・労働者）文学の先駆けとされ、その後の同文学運動に大きな影響を与えた。その「種蒔く人」の文筆活動と対をなし実戦するため、近江谷友治・畠山松治郎等が集まったのが、秋田労農社で「反戦平和、平等、差別撤廃」にと労農民衆の救済のため果敢な活動を展開したが、世は昭和の時代となり特高警察が設置され満州事変の勃発と、その流れの中で国家権力による弾圧に粉碎された。

時代は遡り江戸の寛政初年津村淙庵が、法興寺（今の見性寺）の楼門を実見したときの紀行文に絶賛の字句をもって記述している。その文の一部は次の通り。『……沼のほとりに松一むら茂りたるなかに寺あり、入りてみれば堂舎よりはじめて楼門、石たたみなど、いみじう、つくりなしたり……驚きいふめり。松かげいとすずしければ、立ち寄りてしばしやすらふ……。』と、お寺の側にある『沼とはふくべ川』であり、現在の南小学校一体から幕洗川二区町内の一部を含む沼であり、江戸時代は大きな沼であったと思われる。

時代はもっと遡る土崎湊古絵図に、幕洗川・太刀洗川が描かれている。両川は坂上田村麻呂将軍が蝦夷征伐のあと、戦塵にまみれた陣幕と太刀の血痕を洗った川なのでその名が付いたという。古代寺内村図には幕洗川の水元は烏ガ池という。現中央高校の一带に大きな沼があり、そこから流れて現イオン土崎店の側を通過し、穀保町の「おくら荘」の西側を通過し雄物川に流下した。太刀洗川は清水町付近を流れた川で古絵図によれば将軍野方面から流れているが水元は不明である。

将軍野方面から流れる川は、上記のふくべ川ではないのか？このことを調べた人が居る。土崎史談会渋谷鉄五郎氏の文章の一部を記載する。『太刀洗川の水元は「ふくべ川」という。土崎南小学校の南側の地帯にあった大きな沼の名称であったが、現在は埋立られわずか昔日の面影を残している。ふくべ川の水元は、清水小路と併行するかのよう西に流れ新城町を経て雄物川に流下したという』渋谷氏の文は平成17年史談誌で、当時桜（上記写真）は綺麗で花見もやれたが今は老木となり見る影もなし。

ふくべ（大刀洗）川の流れが今も判る石積が所々に残っている。皆さまも是非探訪して見ては!!



土崎湊古絵図